

# 令和6年度 事業報告書

自 令和6年4月 1日  
至 令和7年3月31日

社会福祉法人 鶯鳴会  
多機能型事業所

1. 事業所の名称 就労継続支援B型 KoBo れもんぐらす  
2. 所在地 三重県名張市西原町 2590 番 6

### 3. 職員体制

管理者	1名(兼務)	サービス管理責任者	1名(専従)
職業指導員	1名(専従)	生活支援員	1名(専従)、1名(兼務)

### 4. 営業日ならびに営業時間

事業所	【毎週月曜日から金曜日、祝】 午前8時30分から午後5時30分
利用者の利用日 ならびに利用時間	【毎週月曜日から金曜日、祝】 午前10時00分から午後4時00分
休所日	土日・年末年始

5. 定員 10名  
6. 利用人数 5名 (R7. 3. 31 現在)  
7. 利用者送迎 希望により、ドア to ドアの送迎を行った。(5名中5名が送迎利用)

### 8. 年間利用状況

年度	開所日数	平均利用人数	延べ利用人数
令和6年度 (令和5年度)	256日 (255日)	5.8名 (7.3名)	1463名 (1860名)

### 9. 利用実績

(利用平均人数：小数点第2位切り上げ)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
開所日数	22	23	20	23	22	21	23	21	20	20	20	21	256
利用人数	7	7	7	7	7	6	6	6	6	6	6	5	
利用延べ人数	149	146	115	151	136	115	133	119	112	97	91	99	1463
利用平均人数	6.8	6.3	5.8	6.6	6.2	5.5	5.8	5.7	5.6	4.9	4.6	4.7	5.8
新規契約者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
契約終了者数	0	0	0	0	1※1	0	0	0	0	0	1※2	0	2

※1. 契約終了理由→就労継続支援A型に移行されたため

※2. 契約終了理由→体調不良のため

## 10. サービス内容

- ◎作業・・・意欲を持って集中して働くこと、作業能力・技量等をもとめること、工賃を得ること等を目的とし、日課の中心として作業を行った。今年度は就労継続支援 B 型から A 型へ「ステップアップを目指したい」という希望者が一名。サービス管理責任者は本人の思いを形にするべく名張市障害者人材センターや相談支援事業所の「のーまらいふ暖」と連携した。障害者人材センターが主となり「ぱとな名張」の見学、ハローワークへの求職登録、面接日の調整、ハローワークでの面接紹介状の発行、面接同行等の支援を行い、「ぱとな名張」の面接に見事合格した。
  
- ◎社会活動・・・パン販売で地域社会と交流した。
  
- ◎外出・・・今まで利用者の希望により 2 か月に 1 回、気分転換・経験等の目的を持ってテイクアウトランチを続けていたが、今年度からお持ち帰りではなく店内で食事をすることにした。利用者からは「お店で食べると、さらに気分転換になる」「楽しい」等、これからも継続してほしいとの声が上がった。
  
- ◎健康管理・・・1 日 2 回の検温、週に 1 度の血圧測定を行い、希望者には健康診断※1 とインフルエンザ予防接種※2、を行った(健康診断希望者なし)また、例年通り、手洗い・うがい・アルコール消毒を 1 日 2 回(登所時・昼食前)徹底して行き、飛沫感染を防ぐため全員にマスクの着用を義務付けた。12 年連続ノロウイルス、インフルエンザゼロ、また新型コロナウイルス感染症に罹患した利用者もいなかった。※1. 03 月  
※2. 11 月
  
- ◎給食・・・希望者対象に給食サービスを提供した。(1 食 300 円)
  
- ◎BCP・・・令和 6 年 4 月から BCP が完全義務化されたことにより、研修及び訓練を年 1 回(内部研修一覧表参照)ずつ行った。
  - ①自然災害
    - 研修→研修では義務化項目や BCP 策定に関するメリット・デメリット、さらに障害福祉サービス事業者に求められる役割について基本的なことを学び直した。また、ハザードマップを用いて最大震度を確認し、災害対策本部の設置基準については担当者から各職員に説明が行われた。
    - 訓練→訓練では各チームに分かれ「ゆっくり、じっくり、ていねいに」一つひとつの動作を理解、納得、確認しながら行った。訓練参加者からも「1 つ 1 つ確認していくことで、本当に正しい行動とは何かというのを考えることができました。あと、自分ができていないところ、忘れていたところもよく見えました。」との感想が挙がった。
      - ・訓練内容…災害発生時の初動確認、避難場所の確認、揺れが収まったあとの行動
      - …火災発生時の対応(通報、消火、避難)、水消火器による消火訓練※
      - ※消防訓練に関しては消防法により年 2 回訓練することが義務化されている

## ②感染症

### 研修・訓練

→衛生管理担当の看護師が中心となり、感染症を予防する体制を整備するため、「正しいマスクの着用法」、手指衛生行為の「手洗い」と「アルコール消毒剤を用いた擦式手指消毒」の方法を確認(リーフレット)しながら訓練を行った。手洗いでは、手洗いチェッカーを使用し普段は見えない洗い残しを可視化し、どこを意識して洗えばいいのかを確認した。また、感染拡大防止の観点からも迅速で適切な対応が求められるため「予防衣の着脱」について訓練を行った。訓練時には、看護師から着脱時の注意点を聞き、確認しながら丁寧にを行うことができた。また、訓練や研修で学んだことを忘れぬよう振り返りシートを活用し各自の反省点や今後の課題を整理する機会を設けた。

◎防犯対策・・・今年度は訓練を行わずグループワーク形式で、現在の防犯対策の再確認を行い、対策と現状を把握し、現在の問題点、課題を洗い出し、それに対する具体的な対応・対策を練り直した。その結果、パン製造班も作業班も「部屋の出入り口は施錠しているが、換気のため窓を常に開けているため不審者に侵入される可能性がある」という問題点が浮上した。対策案として空気清浄機の購入が挙げられたが未だ購入に至っておらず、課題は来年に持ち越しとなった。

## 11. 作業内容

### ①パン・クッキー作業

作業	内容
製造 (パン)	計量(原材料)、トッピング(具材を生地の上に乗せる)、焼成(オーブンで焼く)、パンの袋詰め
製造 (クッキー)	軽量(原材料)、型に生地を詰める、焼成(オーブンで焼く)、クッキーの袋詰め、シール貼り
販売 (パン)	販売先での接客(商品の品出し、会計)、販売準備
清掃	食器(機材含む)洗い、ばんじゅう(パンを入れる箱)消毒、床、棚、車、窓

### ②下請け作業 【受託先：株式会社 SMV JAPAN、東亜ゴム工業株式会社、ARCJAPAN】

内容			
株式会社 SMV JAPAN	東亜ゴム工業株式会社	ARCJAPAN	
検品(傘) 商品の箱詰め 箱作り シール貼り	タグ切り タグ付け替え 値付け	バリ取り 汚れ落とし マーキング	テープ貼り 袋詰め

## 12. 作業別利用者数 (R7.3月末現在)

	パン製造班	下請け作業班	給食班	合計
男性	0名	0名	0名	0名
女性	3名	2名	0名	5名
計	3名	2名	0名	5名

### 13. 工 賃

(A) 工賃支払総額	年間の支払い対象利用者数	(B) 令和 6 年度における開所日 1 日当たりの平均利用者数	(C) 1 人 1 か月当たりの平均工賃額※
1,440,864 円	74 名	5.8 人	20,702 円

※(C)平均工賃額＝「(A)÷(B)÷12」計算方法は指定基準による

### 14. 年間売上

#### ① パン・クッキー製造

年度	年間売上金額
令和 6 年度	2,646,718 円
令和 5 年度	2,377,640 円
令和 4 年度	2,516,205 円

#### 【販売先】

1. アークムフォーミングジャパン株式会社（名張市西原町 2350）	企業
2. 株式会社 SMV JAPAN（伊賀市安場 1101）	
3. 株式会社ニューウェイ（伊賀市服部町 271-1）	
4. ファイン株式会社（伊賀市蔵縄手 377-1）	
5. 三重県立特別支援学校つばさ学園（名張市美旗町南西原 229-2）	福祉
6. 社会福祉法人 名張市社会福祉協議会「ふれあい」（名張市丸之内 79 番地）	
8. いきいき武道館（名張市蔵持町里 2928）	
9. わあく工房 キエロ（名張市すずらん台西 1 番町 243 番地）	医療
10. 矢倉医院（名張市新田 2202-2）	

#### ② 下請け作業 【受託先：株式会社 SMV JAPAN、東亜ゴム株式会社、ARC JAPAN】

年度	年間売上金額
令和 6 年度	663,383 円
令和 5 年度	633,588 円
令和 4 年度	519,935 円

### 15. 苦情(要望)関係

・件数 0 件

### 16. 総 評

前年度に引き続き、平均工賃が上がり、ついに 20,000 円を超えた。1 名の利用者が当該事業所から「就労継続支援 A 型」へステップアップするという喜ばしいことがあった反面、65 歳を超え体調不良を訴えた利用者が 1 名、合計 2 名の利用者が契約終了となった。利用者が減少するなか、これまで集中して働くこと、作業能力・技量等を高めることを目的に、職業指導員や生活支援員が利用者に対し特性を見ながら本人の強みを活かせるよう作業工程の割り振りを行ってきた。また、本人が望む作業工程にも積極的に対応し、年月とともに作業能力・技量が上がった。また、互いに助け合う協働力を身につけるためにも、それぞれの能力や特性を活かした役割分担を明確にし、作業班とパン製造班の目標達成に向けて積極的に作業に関わるように伝え続けた。その結果、利用者が減ったのにもかかわらず両班とも昨年度を上回る売上を達成した。

さいごに、定員に対する利用者の割合が 50%となった今、新規利用者を獲得することが最重要課題となった。現在、令和 8 年度に向けて実習生が一名来ているが新規利用に繋がるかは不確実なため、引き続き、関係機関との連携を強化し新規利用者につなげなければならない。